

平成29年度

伏見区区民活動支援事業 活動事例集

～区民が主役のまちづくり～




伏見区役所・深草支所・醍醐支所



京都市
CITY OF KYOTO

皆でつくる
すむまち 伏見





～はじめに～

「伏見区区民活動支援事業活動事例集」は、同事業の採択団体による「区民が主役のまちづくり活動」を、より多くの皆様に知っていただくことを目的として、また、団体の活動報告を兼ねて作成しました。

「自分たちも伏見区内で何か活動ができないか」とお考えの皆様の参考になれば幸いです。



目次

1 伏見区区民活動支援事業の概要	P1
2 平成29年度採択団体一覧	P2～P4
3 巻頭インタビュー	P5～12
4 採択団体の取組紹介	P13～36



1 伏見区区民活動支援事業の概要

この事業は、「伏見区基本計画～皆でつくる すむまち伏見～」の推進に当たり、区民の皆さんが、自分たちの地域を暮らしやすい魅力あふれるまちにしていけるために、区民主体で取り組まれるまちづくり活動経費の一部を支援するものです。

採択事業は、「伏見区区民活動支援事業審査会」委員による審査を経て、決定します。

平成29年度から、新たに小規模枠事業のうち、重点課題(子どもの貧困対策等、健康長寿、地域防災)の解決を主な目的とし、かつ学区レベルなど広い地域への効果が見込まれる事業については、「重点支援事業」に位置付け、採択しました。

① 補助金上限額

一般枠 上限60万円(必要事業経費の2分の1以内)

小規模枠 上限15万円(必要事業経費の5分の4以内)

② 申請・採択状況

	申請件数(金額)	採択件数(金額)
一般枠	15事業(5,988千円)	13事業(4,724千円)
小規模枠	34事業(4,646千円)	26事業(3,578千円)
重点支援事業	12事業(1,698千円)	12事業(1,698千円)
合計	61事業(12,332千円)	51事業(10,000千円)

参考:過去の採択状況

	申請件数(金額)	採択件数(金額)
24年度	26事業(7,483千円)	19事業(4,946千円)
25年度	39事業(10,504千円)	33事業(8,400千円)
26年度	40事業(10,309千円)	33事業(8,142千円)
27年度	53事業(14,052千円)	33事業(8,393千円)
28年度	54事業(14,178千円)	37事業(9,767千円)

2 平成29年度採択団体一覧

巻頭インタビュー掲載団体

団体名	事業名	掲載頁
地域と人と～ かけはしの会	コミュニティ放送を使った高齢者への生活情報支援	5.6
伏見ロコモ予防クラブ	地域力で行うロコモ予防「健康教室で学び、健康チェックで知る」	7.8
深草学区自主防災会	地域の集会所における表示板の設置	9.10
醍醐西子どもの居場所実行委員会	醍醐西子どもの居場所	11.12

①一般枠

団体名	事業名	掲載頁
特定非営利活動法人 花パン	誰でもがコンシェルジュに! スマホおもてなし講座	13
ハワイアンファミリーデー	Manamana Lima(マナマナリマ) ハワイアンファミリーデー	13
伏見区砂川学区自治連合会	いのちファースト宣言学区プロジェクト	14
特定非営利活動法人 史料データ保存ネットワーク	『古文書で伏見の歴史を再発見!』	14
父活プロジェクト	大岩山の自然資源を活かした里山のちいさなシゴトづくり	15
子ども・若者の拠点づくり事業 実行委員会	子ども・若者の拠点づくり事業	15
特定非営利活動法人ちいろば	よろず相談	16
鳥羽伏見150	五感で感じる鳥羽伏見の戦い150年プロジェクト	16
伏見子ども歌舞伎実行委員会	伏見子ども阿国歌舞伎の再現プロジェクト	17
川魚文化再興プロジェクトチーム	酒と川酒菜ベストマッチメニュー(商品)の決定と伏見飲食文化の発信・普及事業	17
稲荷の家ほっこり つどいの広場	稲荷の家ほっこり 居場所づくり	18
コトーハイツ伏見稲荷さずなづくり事業 実行委員会	集合住宅と地域を結ぶ多世代交流居場所・さずなづくり事業「ことはいカフェ」	18

※各枠ごとに申請順に掲載しています(インタビュー除く)

②重点支援事業

団体名	事業名	掲載頁
京都市南浜児童館運営協力会	笑顔つなぐ みんなのいいばしょ(居場所)	19
田中宮市宮住宅自治会	竹田子ども育みプロジェクト	19
ダイニングあんさんぶるわこう実行委員会	こども食堂(ダイニングあんさんぶるわこう)	20
みんなで元気体操と話の会	みんなで元気体操(筋力トレーニング、介護予防トレーニングの実施)	20
ふれあいオレンジカフェももやま実行委員会	地域と共に第2の人生を自分らしく生きる集い、支え合い、学びの縁側	21
日野学区婦人会	日野学区支え合いサロン おかげさま	21
小栗栖宮山自主防災会	「小栗栖宮山防災行動モデル」の策定	22
羽束師地区自主防災会	マイ防災マップの作成及び全戸配布	22
二ノ丸学区自主防災会	わたしの避難計画	23

③小規模枠

団体名	事業名	掲載頁
お話し会の会 すずらん倶楽部	高齢者が、他の高齢者、障害者、子どもに朗読、読み聞かせを提供する「つながりを広げる活動」	24
久我の杜交通安全推進委員会	久我の杜小学校区域及び神川中学校児童通学路交通安全対策及び車両に対する啓発活動	24
ちえのわ	認知症の人もそうでない人もみんなずっとこの地域で暮らして行ける	25
きまぐれサロン	きまぐれサロン「音楽療法と笑いヨガで心と体の健康づくり」	25
淀催事の会	第二回 淀夏祭り	26
しもづ ほっとサロン 友の会	みんなの居場所 しもづ ほっとサロン	26
御香宮武者組	伏見のワラジ造りプロジェクト	27
深草竹コプターの会	竹とんぼによる地域資源再生(活用)と多世代交流	27
川久保町自治会	地震に強い町づくり～南海トラフ地震に備えて～	28

団体名	事業名	掲載頁
伏見楽舎(ふしみがくしゃ)	ヨシ灯り展	28
久我土ん子クラブ	久我食育推進事業	29
ももネット	認知症につよいまちづくりの輪	29
特定非営利活動法人 深草・龍谷町家コミュニティ	町家 de "交龍"サロン	30
大岩七瀬川サロン実行委員会	大岩七瀬川サロン	30
Green Island 向島	地域のつながりを作る みんなの菜園整備プロジェクト	31
京都文教大学 多文化交流プロジェクト	留学生がつなぐ、地域と異文化理解プロジェクト	31
FUSHIMI留学生サポートクラブ	留学生と一緒に田んぼで遊ぼう! 子ども稲作体験プロジェクト	32
NPO法人向島駅前まちづくり協議会	向島駅前の環境整備と活性化	32
久我自治連合会	久我やすらぎルーム	33
伏見～るかるた小冊子作製委員会	伏見～るかるた小冊子作製	33
藤森神社ラジオ体操の会	藤森神社ラジオ体操の会	34
鴨川運河会議	鴨川運河 ～健康長寿・発信&発信～	34
龍谷大学政策学部 井上ゼミ	大岩街道周辺地域の環境保全活動 およびコミュニティ再生	35
うずらの里の森のようちえん わっか	とことんあそぼう!しぜんとあそぼう!ドキドキ、ワクワク、ハテナがいっぱい!「森のようちえん」	35
笑顔いっぱい会の会	子育て支援・高齢者の居場所づくり・多世代の交流の場づくり	36
醍醐の歴史と暮らしを学ぶ会	醍醐古写真集	36

※各種ごとに申請順に掲載しています(インタビュー除く)

3 巻頭インタビュー

コミュニティ放送を使った高齢者への生活情報支援

〈地域と人と〜 かけはしの会〉

連絡先 ☎075-602-9443 ✉kakehashinokai@gmail.com (葛山)



ラジオを通じて朗読ボランティアが伏見区のイベント情報や行政からの案内を伝え、高齢の方々に伏見での暮らしに活力と安心を届ける活動を行う「地域と人と〜かけはしの会」代表の葛山知佳子さんにお話を伺いました。

代表の葛山さん

活動インタビュー

高齢者に伏見の生活情報を届けたい

伏見区では65歳以上が人口の25%以上(約75,000人)を占め、そのうち約16,000人が一人で暮らしています(平成27年京都府統計より)。

葛山さんは伏見にあるラジオ局「京都リビングFM」に勤める中、番組を通じて「家に帰ると一人で話す機会がない」「ラジオのクイズに電話で答える時間が唯一の社会とのつながり」と語る聴取者の声を聞く他、新聞やインターネットに触れない高齢の方に、伏見に根差した情報が十分に行き届いていないと感じていました。

そこで、葛山さんは暮らしに身近な情報を届けることで、家に引きこもりがちなお年寄りの方が外に出るきっかけづくりをしたいと思い、ラジオで市民しんぶん伏見区版(以下、区版)の情報を伝える活動を始めました。

「お年寄りのための生活情報〜声のかけはし」番組を放送

「地域と人と〜かけはしの会」(以下、かけはしの会)では、ボランティアが区版に掲載されている情報をラジオ番組で伝えました。

ボランティアはABCDの4つのチームに分かれ、ABチームが第4水曜日午前中に、CDチームが第1水曜日午前中に集まり、発声練習や原稿を読み合わせた後で収録を行い、10月から2月の毎週金曜日午後12時から約10分間「お年寄りのための生活情報〜声のかけはし〜」として放送されました。2月には、朗読ボランティアと聴取者が集う交流会が開かれました。交流会には、番組を聴いてくれている高齢の方が10名、放送での呼びかけに応じて参加してくれました。活動が聴取者に届いていることを実感し、ボランティアの励みにもなりました。

地域の人が地域の人に語りかける

京都リビング新聞で活動仲間を募ったところ39名の応募がありました。スタジオの広さや活動の頻度などを考慮して25名に達した時に募集を一旦やめ、説明会を開いた後で22名が活動に参加することになりました。ボランティアは伏見、深草、醍醐地域に暮らす人が2/3を占めますが、宇治、城陽、久御山町からも集まりました。

ご近所さんや友人に誘われているような雰囲気や聴き手に伝えられるように「ゆっくり、優しく、分かりやすく」とポイントを押さえて練習しながら本番に臨んでいます。

活動を続けるうちにランチに出かけたり、LINEでやり取りしたりするなど活動仲間として打ち解けてくると、収録の雰囲気も和やかなものになり、語りかける声も柔らかくなってきたそうです。

最初は葛山さん1人で始めた活動でしたが、今では22名のボランティアと一緒に活動しています。葛山さんは取りまとめ役として、ボランティアの方に楽しく活動してもらっているか、活動のモチベーションを保つにはどうしたら良いか、どのくらいの活動頻度が適しているかなど、より良い活動の進め方を日々模索しながら、「たくさんの朗読ボランティアの方に出会えて本当にうれしいです。」と新たな仲間ができたことにやりがいを感じていました。



スタジオでの朗読会



本番に向けての練習風景

活動の継続に向けて

区民活動支援事業に採択されたことで、区役所や支所、図書館などでチラシを配架できたり、区版に活動を紹介されるなど「初年度なので、団体ができたことを周知する機会をいただき感謝しています。」と葛山さん。さらに、これまでに5件の採択団体がFM845の番組「ワカバンNEO」に出演するなど他団体とのつながりも生まれました。

今後は、区版だけではなく、区民活動支援事業の採択団体の活動や、ボランティアが自分の住んでいる学区の情報を伝えるなど情報の幅を広げてみたり、文学作品の朗読コーナーを設けるなど聴取者が楽しく情報を聞けるような工夫を加えていきたいと考えています。

情報を拾ってすぐに行動できる人もいますが、区版やチラシ、ラジオなどで何度か情報を目にしたり、耳にしたりするうちに「行ってみようかな。」と行動に結びつくこともあるでしょう。「ラジオでの情報発信を通じて、私たちは家に閉じこもりがち高齢の方々が一歩外に出たり、生活に少し張りが出ると感じてもらえるように活動を続けていきたいです。」

3 巻頭インタビュー

地域力で行うロコモ予防「健康教室で学び、健康チェックで知る」 〈伏見ロコモ予防クラブ〉

連絡先 ☎075-631-1215(金井病院地域連携室 矢野)

これから迎える超高齢化時代では、「いかに長く生きるか」、だけでなく「いかに健康で過ごすか」が重要です。そのため、伏見ロコモ予防クラブは、「ロコモ予防」を通じて介護予防や健康寿命の延伸につなげることを目指して、淀・淀南・納所地域を中心に活動しています。

お話を伺ったのは、淀連合自治会の会長西庄さん、金井病院リハビリテーション科の豊川さん、金井病院地域連携室の矢野さんです。



取材風景

活動インタビュー

これまでの活動

「ロコモ」とは「ロコモティブシンドローム」の略称で、運動器症候群という意味です。筋肉、骨、関節、軟骨、椎間板といった運動器に障害が起こり、移動能力の低下をきたし、要介護の危険性が高い状態を言います。

金井病院の豊川さんによると、「日本人の寿命が延びているのは事実ですが、できるだけ介護状態にならずに健康寿命を延ばすことがとても大事であり、そのため「ロコモ予防」の啓発活動に力を入れています。特に、病院だけの取組ではなかなか広がらないので、地域と協力しながら進めています。」とのこと。平成27年からは、「地域力で行うロコモ予防」という事業として月1回の水中ウォーキングや年2回のポールウォーキング(*)を実施してきました。

伏見ロコモ予防クラブの実行委員長でもある淀連合自治会の西庄会長によると、「運動が終わった後のみなさんの達成感に満ち溢れた笑顔が印象的でした。ポールウォーキングでは、歩きながら参加者同士おしゃべりをして楽しんでいたようで、運動機能の維持だけでなく、活発なコミュニケーションにより頭も活性化されて健康寿命を延ばすような気がします。」とのこと。淀・淀南・納所の住民の皆さんが、楽しく和気あいあいと活動に取組まれている雰囲気が伝わってきます。

今年度の工夫は？

「これまででは体験型の取組が中心でしたが、今年度は学びの機会を設けました。具体的には、ロコモ予防について正しい知識を学ぶための健康教室を金井病院で2回開催しました。そして、現在の自分自身の健康状態を知るための健康チェックを目的とした「健康広場」を10月29日に伏見区役所で開催しました。この日は台風が直撃したにも関わらず、伏見区の様々な場所から100人を超える多くの方に参加いただきました。」と豊川さん。アンケートで9割の方がまた参加したいと答えるなど、好評だったようです。また、参加者の4割以上が市民しんぶんを見て来られたことがわかり、淀・淀南・納所にとどまらず、より広く伏見区の方々への啓発活動となったようです。



「健康広場」でのロコモ疑似体験の様子

地域とともに歩む病院

これらの一連の取組では、病院と地域が密接に協力していることが特徴的です。矢野さんによると、「当院は救急医療、在宅医療、予防医療が3本の柱ですが、近年特に総合診療・家庭医療に力を入れています。地域のみなさんの健康に関して何でも見ることが出来る家庭医の育成に力を入れています。同じようにロコモ予防も医療者が町へ出向いて住民の方々と直接コミュニケーションをとることが重要だと考えています。」とのこと。

西庄会長は、「金井病院はこの地域で開設して40年になり、地域の様々な取組にも協力いただいています。平成24年には「大規模災害発生時における地域協力」覚書を、淀・淀南の自主防災会と締結するなど、地域としてはとても頼りになる存在です。」と語ります。実際、淀で月1回実施している独居高齢者向けの食事会にも、時には金井病院からスタッフが出向いて健康に関するお話をするそうです。今回のインタビューでお話を伺って、地域と病院の強固な連携を感じました。

※ポールウォーキングは、高齢者やリハビリ中の人まで、老若男女、誰でも行える健康促進を目的としたもので、専用ポールを持って歩くことで、正しい姿勢のまま歩幅を広げてバランスよく歩くことができます。よく耳にするノルディックウォーキングに似ているが、より安全に、誰にでもできるウォーキングスタイルである。



ポールウォーキング



健康教室



たくさんの人で賑わう「健康広場」

3 巻頭インタビュー

地域の集合場所における表示板の設置

〈深草学区自主防災会〉

連絡先 ☎090-7344-1535 (森澤)



深草学区自主防災会役員のみなさん
(左から森澤幸次会長/守山博巳さん/若田孝道副会長)

毎年300人ほどの学区民が参加する総合防災訓練。実施する「深草学区自主防災会」が今年、学区全74町内中69町内に協力を仰ぎ(平成29年12月時点)71箇所に「地域の集合場所」を示す表示板を設置する取組を実施。その取組に至る経緯や苦労した点、設置にかけた思い等をお聞きした。

活動インタビュー

把握されていない『地域の集合場所』

そもそも「地域の集合場所」とは、大地震発生時に集合し、安否確認や災害状況把握・救助対応を行う場所で、町内ごとに決められており文書で回覧されている。全戸に地域の集合場所が記入できるシールを配布する等で周知される。しかし、昨年度伏見工業高校防災学習の一環で地域対象に行われた調査により、集合場所周知が徹底されていないとの報告を受けた。多くの住民が「地域の集合場所」の認識が薄く、住民同士の安否確認や助け合いができない状況が見えてきた。同高校からはこの現状を懸念し「のぼり旗」を地域の集合場所に設置・周知する改善策が提案された。

自主防災会で協議した結果、のぼり旗より耐久性があり設置可能な「表示板」をとの意見があり、表示板作成に取組むことに。軽い気持ちで始めたが、思いの外多くの苦労が待ち構えていた。

表示板設置の「取付許可申請」に走り回る日々

取組むうえで、大きく分けて4つの苦労があった。まずは表示板のデザインと大きさ。「地域の集合場所」をどうデザインするかについて、京都市防災危機管理室に問い合わせ、他事例の情報を収集したが、決まったロゴがない。調べていくと、全戸配布の「京都市伏見区詳細図深草学区区域図」の地域の集合場所には「集」のロゴで示されており、これと連動させれば分かりやすいとロゴを「集」に決めた経緯を話す守山さん。また大きさについて、目につきやすくとのかから現状の倍以上を想定したが、現地調査をすると民家には設置困難な状況も見え、現寸の大きさになったとのこと。

2つ目の苦労は取付許可(承認)。実は地域の集合場所には道路や公園等の公共の場所や民有地が多い。一箇所ごとの取付許可申請のため、公共の場所は京都市広告景観づくり推進室・公園管理団体・土木事務所へ、また民有の場所は建物・土地所有者へと走り回ることに。直接面識がない所有者には、面識がある自主防災会の役員・町内会長に



表示板のデザイン(「吉兆くん」入り)

頼み取り次いでもらったと話す。この申請作業と同時に苦労した3つ目は表示板の表記。深草支所公式キャラクター「吉兆くん」使用の条件を守ったデザインや文字の変更等で修正が求められるたびに、デザイン担当の守山さんは「下京区のひとまち交流館にあるイラストレーターが使えるパソコンを使用しに通った。町名の文字間違いは許されず緊張する作業だった。修正がかかるたび音をあげそうになった。8・9月が一番しんどかった」と振り返る。

いよいよ設置許可が下り、最後の難関は設置方法だった。設置場所ごとに状況は異なる。フェンスは結束バンドで取付けできるが、フェンスが無い所は難しい。ブロック塀や柱にも工夫して取付けた。一つひとつ磁石・ワイヤーネット等活用し、「知恵を絞り尽くして」方法を考えたと言う。どうしても取付不可能な場所に直面し困っていた時「ショーウィンドーの内側につけようか」との申し出あり、地域の方の厚意に救われる局面もあったようだ。



表示板設置後の写真(小久保公園)

熱意にほだされ、地域の方々や行政の職員さんも協力してくださり・・・

取付許可申請のため行政部署を回る際苦労した案件も、深草支所の協力を受け円滑に進むように。町内会長や地域の方々も所有者に話をつけてくれ、多くの方の厚意と尽力を得て、6月から始めた設置に向けた取組は12月初旬についに完了!

周知徹底を図るため、表示板に記した町番「1〜79」を、関西地図協会へ協力を要請し、平成30年度版「深草学区区域地図」の(集)の番号とも連動する形で記載してもらったり、町内への回覧用周知文のサンプルを作成し周知依頼を出すなど、その努力は測り知れない。

成果とこれから「たすけあい」の輪を広げ、若手育成と「備え防ぐ力」伝授

取組を行って見て意外な効果もあった。実際、地域の集合場所に大勢が集まると危険な場所もあり、「災害発生時の避難ルート再確認といった点でも考え直すよい機会になったのでは」と岩田さん。またこの取組を知った隣学区から「設置を検討したい」と声をかけられるなど、波及効果もあるようだ。「今後は補修メンテナンスが課題」と語るのは森澤さん。「台風時など破損しやすい環境下や防災訓練時に必ず点検に回るような仕組みも考えていきたい」とのこと。最後に森澤さんらは「表示板は設置するのが目的ではなく、ここからがスタート。大規模な地震災害も見込まれる今後、表示板を活用していかに町内同士で「助け合える土壌」をつくれるかが大事。この活動を通じて助け合いや活動の輪が広がれば」と語る。

昨年度は防災マニュアル作成、今年度は表示板設置と地道に活動を発展させてきた当会だが、今後取組みたいことに「若手の育成」を掲げる。現在、龍谷大学や地元の中高生との関係づくりを進めるが、「若い人の力を活用できる受け皿を作りたい。防災時の認識やノウハウを学んでもらい、いずれ親になった時に活かしてくれれば」と願う。そんな願いのもと、今年の防災訓練は近隣中学や高校に呼びかけ実施。中高生60名が参加した。「備えあれば憂いなし」の諺もあるが、深草学区自主防災会は表示板設置に伴う集合場所の周知を通じ、「自主防災(=自分たちの地域は自分たちで守ろう)」の理念を広め、日々地域の助け合う関係づくりを努めている。



表示板を元に、講演する森澤自主防災会会長

3 巻頭インタビュー

醍醐西子どもの居場所 〈醍醐西子どもの居場所実行委員会〉

連絡先 ☎075-572-2659 (温井)

活動インタビュー

醍醐西子どもの居場所とは

たくさん子どもたちが、思い思いに過ごしている。友だちとおしゃべりする子、トランプをする子、絵を描く子、ボールで遊ぶ子、勉強する子…。大人たちは、一緒に遊んだり、遊ぶ子どもたちを周りで見守ったりしている。そんな和やかな空間が営まれている「醍醐西子どもの居場所」。

これは、醍醐西子どもの居場所実行委員会が、平成28年8月から月1回、醍醐西学区の集会所で実施しているものだ。

民生児童委員や社会福祉協議会、女性会のメンバーを中心に20名程度で運営されており、中には若い学生ボランティアの姿も見える。

参加する子どもたちは、醍醐西小学校の児童で、毎回20～25名程度。実行委員会がチラシを作り、チラシの配布や、先生から児童への案内など、小学校を通じて積極的に周知することで、集まっている。



取組のきっかけ

この取組のきっかけは、伏見区民生児童委員会が、各学区での子育て支援の取組を推進したことだ。醍醐西学区では、企画の立上げにあたって小学校にも相談を持ちかけた。そこでのやりとりから、サポートを必要とする児童が少なからずいるという地域事情を鑑み、醍醐西学区では「子どもの居場所」を作ることにしたのだという。

工夫や大切にしていること

集まった子どもたちが学校の宿題などをやる、勉強の時間も設定しているが、続けていくうちに徐々に自由な気風に変化していったという。あるスタッフの方は「遊びたい子は遊んでいいし、勉強したい子は勉強していい場です。高齢

者サロンは地域でもよくやってきたけど、高齢者は大人なので、主催者の意向に合わせてくれることもあるんです。でも、子どもたちは、やりたくないことには合わせてくれないですからね。子どもたちに参加してもらおうと思うと、子どもたちがしたいことが安心してできるようにすることが大切。」と語る。

小学校も、この場をととても大切に考えている。参加していた小学校の先生は「ここだと、子どもたちが、学校では見せない顔をするんですよ。学校では、大人1に対して、子ども30になってしまう。指導する・されるという関係もある。でもここみたいに、色んな大人が周りにいっぱいいると、子どもたちが甘えられるんじゃないでしょうか。」と語る。学校だけではできないサポートを地域活動と分担して行うことができているということだろう。

ここでの大人と子どものつながりが、この場の外での日常的なやり取りや、自然な形での見守りにつながっていく。あるスタッフの方は「ここで顔見知りになった子どもたちが、通りすがりに、「おばちゃん、こんにちはー!と挨拶してくれるようになったんです。」と楽しそうに語る。

当日はスタッフ手作りのカレーが振舞われた。子どもたちがいちばん喜ぶ献立が、カレーだそう。調理を担当されるスタッフの方は「以前、ちらし寿司を作ったことがあるんです。すごくたくさん作ったのに全部無くなったんですよ。」「だから、毎回どんな献立にしようか考えるのが大変で。」と嬉しそうに語る。続けて「ここで出した料理が、子どもたちに、「こんな食べたこと無い!」といって喜ばれたんです。「お母さんはそんな作れない!」って。それを聞いて、なんでも手作りしてあげようと思ったんです。手作り、親の味と思って作っています。」と、この取組の持つ背景や意義も合わせて語ってくださった。

この場は、たくさん関係者によって支えられている。だから毎回の反省会を大切にしている。どの子がどんなことを言っていたとか、どんなサポートが必要か、どう分担していくかということが、一人ひとりの子どもたちと結び付けられて語られる。このような丁寧なミーティングの積み重ねが、穏やかな居場所を支えている。

今後の展望

温井委員長に「この取組を通じて実現したいと目指しておられるのは、どんな状態ですか?」と尋ねると、子どもたちがたくさん大人に見守られながら安心して遊び、食事をする場の風景を、目を細めて眺めながら、笑顔で「まさに、この状態ですよ。」と語られた。

「子ども食堂」のような取組は、ある種のブームのようになり、各地で実施されているが、ボランティアの協力を得られず頓挫したり、子どもたちの参加を持続できなかったりするケースは数多く見られる。そのような中で多様な主体の協力を得て、子どもたちの積極的な参加を維持している醍醐西子どもの居場所実行委員会の取組に学ぶことは大きい。



4 採択団体の取組紹介 ①一般枠

誰もがコンシェルジュに! スマホおもてなし講座 (特定非営利活動法人 花パン)

連絡先 ☎075-612-6099(馬場) ✉info@hanapaso.jp

スマホ所有率は著しく増えているにも関わらず、操作方法がわからなくて困っている人が多い。伏見を訪れる外国人観光客に道を尋ねられたりしたときに外国語が話せなくてもスマホの翻訳アプリ、地図アプリ、乗換案内アプリ等を使い、道案内などができる。

バスの時刻表、バス停などは観光客のみならず伏見の人たちもわからないことが多い。

区民レベルでの国際交流を促進することを目的に、伏見をICTで観光案内出来るまちになるようスマホの講座を実施している。



「スマホがこんなに便利だとは思わなかった」の声が毎回聞かれます。実際に講座では外国人と対話して翻訳アプリを体験するのが好評です。



Manamana Lima(マナマナリマ) ハワイアンファミリーデー (ハワイアンファミリーデー)

連絡先 ✉rieanuenu@gmail.com (山根)

7月22日、23日と二日間 淀城跡公園にて開催しました。フラダンスステージ、各体験型ワークショップ、手作りショップ、飲食ブース、夏休みの子もたちの遊び場、学びの場、体験の場をつくりました。

また、お手伝いやゲーム大会に参加してもらえるマナリマチケットを発行し、チケット枚数で景品、お菓子などと交換できる企画を実施。子どもたちは、楽しみながら積極的にお手伝いや清掃活動に取り組み、地域の方々との交流を通して自分の街を綺麗にする気持ちが生まれました。淀城跡公園のゴミが少なくなったとの報告もありました。



猛暑の中、フラダンスチーム19チーム200名程の参加がありました。会場はハワイアンソングが流れ盛り上がり、各ワークショップブースや飲食ブースでも完売となり、出店していただいた各オーナー様にも喜んでいただきました。



いのちファースト宣言学区プロジェクト (伏見区砂川学区自治連合会)

連絡先 ☎075-641-3852 (会長:土田)

姉妹地域の京北の人たちに、砂川の子もたちが招かれ、清流で鮎の掴み取りをした後、焼いて食べ、いのちの大切さを学び合いました。東高瀬川にホテルを蘇らせようと、地域の力を結集してホテルのタペを開催しました。京都府警察学校の招きで砂川と京北の子も達と地域の人たちが馬に触れ、石丸校長からいのちの大切さの講話を聞きました。秋には龍谷大学で多世代交流会を開き、いのちの大切さを話し合いました。

1月にはシンポジウムを開催し、2月には自分史の冊子を刊行しました。



小学2年生の標語と6年生の絵で「いのちファースト砂川」のチラシとポスターが出来上がり、各町内に貼り出されました。



古文書で伏見の歴史を再発見! (特定非営利活動 史料データ保存ネットワーク)

連絡先 ☎090-1448-8572(向坂 正美)

歴史から学び、新しいfushimiのまちづくりに活かそう

伏見区内の某社社の古文書調査を実施しました。完了するまでには、まだ数年を要すると思われます。古くからの史料が残っていますが保存状態が悪く、中には水ぬれで紙同士がくっついて剥がせないものもあります。また、戊辰戦争当時の日記もあり、当時の混乱した状況なども分かります。他にも神社と役所とのやり取りを記録した文書もあり、中には「伏見のまちづくり」に活用可能なものもありそうです。しかし、あまりにも大量のため、ようやく整理を終え翻刻作業を始めたところです。



調査風景①



調査風景②

この社社のように過去に体系的な史料調査がなされていない「古文書群」が市井には沢山残っていて「まちづくり」や「歴史の継承」などに活用しなければもったいない。



4 採択団体の取組紹介 ①一般枠

大岩山の自然資源を活かした里山のちいさなシゴトづくり (父活プロジェクト)

連絡先 ☎075-644-9298 ✉info.chichikatu@gmail.com(西森)

まちの未来を思い描きながら、情報発信を行い、「学び」を通じて、つながりのある関係を育み、自分たちも共に成長していく「まちのきょういく委員会」プロジェクトです。

深草地域の大岩山(大岩街道～展望台)の深草トレイル道を中心に毎月第2土曜日または日曜日を定期活動日にし、身近な里山におけるシゴトづくりに取り組みました。

大岩山の自然資源を活かしたイベント、ワークショップを実施しました。



大岩山には多様な生物が暮らしています。しかし、同時に多様性が失われつつあることも事実です。これからの大岩山をどうするかは大事な課題の一つと考えています。

子ども・若者の拠点づくり事業 (子ども・若者の拠点づくり事業実行委員)

連絡先 ☎075-603-1287(桐澤) ✉kodomoandwakamono@gmail.com

いま、様々な地域で、子どもの学びや成長を支えていくための居場所づくりや貧困対策が取り組まれています。そこで、向島ニュータウンで地域住民とボランティア、関係機関が協力して、子どもや若者と関わっていくための拠点づくりを進めてきました。



その拠点では、小学生向けの勉強会や子ども食堂、中学生向けの学習会や料理体験、高校生や同じ年代の居場所づくりに取り組んでいます。子ども・若者のにぎやかさに負けないように、一生懸命取り組んでいます。

子どもたちの笑顔や変化を糧に活動をしています。得るものが多い活動なので、もっと多くの方に参加してほしいです!



よろず相談 (特定非営利活動法人ちいろば)

連絡先 ☎075-644-5894 ✉npo.chiiroba@palette.plala.or.jp

「あなたの居場所 スカサ」

地域サロン(居場所)の活動を続ける中で、話を聞く「窓口」の役目が大切だと考え、「よろず相談」の看板のもと、何でも話せる相談屋さんを実施しています。地域の方を対象に、月曜日～金曜日13:00～15:00「あなたの居場所 スカサ」にて、ボランティアスタッフが相談に対応しています。悩みを一緒に考えて、役所や関係機関につなげることを大切にしています。皆様の悩み・問題点をテーマにして専門の講師による講演会・演奏会・相談会も実施しています。平成29年度から、皆様の要望を受けて実施している「夕べのお料理教室」も参加者の皆様に大好評です。



「夕べのお料理教室」子どもからお年寄りまで、幅広く参加いただき、楽しいひと時を過ごしています。ただのお料理教室ではなく、人を良くする「食」の大切さを学ぶ教室となっています。



五感で感じる鳥羽伏見の戦い150年プロジェクト (鳥羽伏見150)

連絡先 ☎090-6737-0980 ✉kyotocityhistory@gmail.com(井口)

鳥羽伏見の戦いから150年目に当たる区切りの年に、周年事業を実施することによって、この戦いにおいて伏見区および周辺地域の住民がとった勇敢な行動を顕彰し、50年後、100年後、150年後の伏見の繁栄を願いながら、地域の発展と住民の暮らしの向上に寄与するまちづくり事業に取り組みました。

主な事業: ①伏見幼児園園児の鼓笛隊による時代行列、②鳥羽伏見の戦いオリジナル絵図の展示、③講演会と朗読会:「鳥羽伏見の戦いと伏見町衆の活躍」、④劇団「戦国乙訓つつじ」による歴史ショー



50年に一回の周年事業、楽しく頑張っています。継続的なまちづくりとして今後も取り組みます。次回の周年事業は50年後の2068年。



4 採択団体の取組紹介 ①一般枠

伏見子ども阿国歌舞伎の再現プロジェクト〈伏見子ども歌舞伎実行委員会〉

連絡先 ☎075-605-0678 ✉info@jidaiisho-okamura.com(岡村)

「伏見で生まれた桃太郎」を演目とする子ども歌舞伎に親子で参加することを呼びかけ上演し、伏見が歌舞伎発祥の地の一つであることと、桃太郎が御香宮神社で授かった桃から生まれたという江戸時代のおとぎ話を、伏見の住民・事業者に知ってもらうことによって、次の3点の目標実現を目指します。①伏見の新たな魅力として発信、②親子の対話が増える、③子どもたちに家族の大切さを伝える。
平成30年2月に藤森神社参集殿で、第3回伏見子ども歌舞伎を開催しました。



参加する子どもたちがなかなか集まらずに苦労しましたが、何とか公演を実施することができました。また、伝統的な歌舞伎を目指すメンバーや、現代的な歌舞伎を目指すメンバーなど様々な考えがあり、まとめるのが大変でした。



稲荷の家ほっこり 居場所づくり〈稲荷の家ほっこり つどいの広場〉

連絡先 ☎075-641-2700(下村) ✉tudoi@kyoro.or.jp

医療的なケアが必要なお子さんとその保護者の方の居場所づくりとして、8月から毎月2回、定期的に遊び場の提供をしています。また、9月には龍谷大学生さんのご協力のもと町家キャンパスにて音楽会を開催、10月には地域の方への広報のため朝市に出店しました。12月には聖母女学院さんのクリスマスイルミネーションを見学させていただくために夕方からの外出を企画しました。
その他、保護者の方同士の情報交換や、専門家との意見交換などを行いました。



居場所の広報活動や、多くの方にご参加いただくためのイベントの時期や内容の考案など、課題はたくさんありましたが、少しずつ前に進むことができました!



酒と川酒菜ベストマッチメニュー(商品)の決定と伏見飲食文化の発信・普及事業〈川魚文化再興プロジェクトチーム〉

連絡先 ☎075-644-6643 ✉seikagakuken@hotmail.com(藤掛)

伏見を訪れる観光客へのおもてなしの向上に向けて、水のまち伏見と歴史的なつながりの深い川魚と地域の産品を使った定番メニューの開発及び公募を行い、伏見の飲食文化の魅力開発と普及に取り組んでいきます。

- 平成29年度 事業実施計画
1. 川酒菜定番メニュー(商品)の募集と開発
 2. お酒と川酒菜定番メニュー(商品)とのマッチングコンテストの開催
 3. 川酒菜定番メニュー(商品)のための場の設置、伏見の新しい飲食文化の創出。

酒と川酒菜ベストマッチ

◆料理部門
道明寺揚げ×神聖



◆加工品部門
九条ネギ葱鯉のパーティ×富翁



マッチングコンテスト



集合住宅と地域を結ぶ多世代交流居場所・きずなづくり事業「ことはいカフェ」〈コトーハイツ伏見稲荷きずなづくり事業実行委員会〉

連絡先 ☎090-1903-3347(久守) ✉jzf02757@nifty.com

集合住宅(コトーハイツ伏見稲荷)と地域のつながりやきずなを深めることを目指し、子育て世代からシニア世代までの多世代交流居場所サロン「ことはいカフェ」をハイツ棟集会所で実施しています。



- ・毎週水曜日 午後1時半～3時半
- ・第4土曜日 午前10時半～12時
- 「うたごえカフェ(月3回)」「ものづくりカフェ～新聞ちぎり絵～」「ふわふわ子育てカフェ(土)」
- 12月には骨密度測定・血圧測定も行いました。

平成28年6月に実行委員会を立ち上げ同年9月から居場所カフェを開催。この間延べ1,700人も地域の皆さんに参加いただいています。



4 採択団体の取組紹介 ②重点支援事業

笑顔つなぐ みんなのいいばしょ(居場所) (京都市南浜児童館運営協力会)

連絡先 ☎075-611-3176 ✉minamihm@kyo-yancha.ne.jp

南浜学区内に新しいマンションが建設され、多くの子育て世帯が転入してきており、子育て世帯の孤立を減らすため、子どもの居場所作りとして様々な事業を開催し、地域全体で子どもの成長を見守っていただけることを目的としています。



今年度は、ゲーム大会にクッキングそして学習支援という開催しました。その中でも子どもたちが作ったおうどんは、心もからだもあたたかくなり、おいしかったです。



こども食堂(ダイニング あんさんぶる わこう) (ダイニング あんさんぶる わこう実行委員会)

連絡先 ☎075-575-2255 (小林)

南山城学園 醍醐和光内の施設(多目的ホール・芝生広場・デイサービス食堂等)を開放し、「地域の輪」の交流スペースとして活用し、また、子どもたちが安心して過ごせる地域コミュニティづくりを目的として実施しています。

遊びや食事をみんなが楽しみ、交流することにより、子どもたちの健全な育成を図るとともに、季節の行事等に地域の方や法人の若手職員と一緒に取り組み、家庭とは違った雰囲気でも過ごし、友人への思いやりや絆の大切さを感じ、また、食べることの大切さを実感できる事業としています。



手作りの流しそうめんの機械でそうめん以外にもスイカやサクランボを流し、子どもたちは大喜び! 保護者も参加し、にぎやかに夏の終わりを楽しむことができました。



竹田子ども育みプロジェクト (田中宮市営住宅自治会)

連絡先 ☎075-644-5606(月・火 15:00-17:00) ✉tanakanomiya_kakurabu@hotmail.co.jp(岡田)

子ども・学生・地域住民の交流や地域の子育て支援ネットワークづくりを目的に、学生ボランティアIVUSA深草クラブ及び竹田保健協議会と連携し、1日限りの「田中宮まんぼう子ども食堂」をオープンしました。当日は、手作りカレーと豚汁をみんなで食べたり、子どもと学生と一緒に遊んだりすることにより、交流を深めました。また、地域の伝統文化の振興を目的に、「竹田の子守唄」盆踊り練習会を開催し、地域の伝統文化に子どもたちが気軽に触れる機会を創出しました。



子ども食堂は子ども達から「また開催してほしい。」という意見も多く、大変好評だったので、定期的に開催することを検討しています。



みんなで元気体操(筋力トレーニング、介護予防トレーニングの実施) (みんなで元気体操と話の会)

連絡先 ☎075-631-6201(福島) ✉funana@iris.eonet.ne.jp

会は平成26年8月に設立。納所、横大路とその周辺地域にお住まいの高齢者を対象として、いつまでも、自分のことは自分で生活活動が出来る体力づくりを(ロコモ予防)目的に、毎月3回、横大路運動公園トレーニング室(2F)で筋トレ、脳トレと適時に生活関連の事項についてのお話の会を2時間程度開催しています。皆様のご参加をお待ちしています。



参加の皆さん、よりよい出会いと健康寿命を少しでも延ばそうと真剣に取り組まれています。会はずっと、和やかな雰囲気の中で進行されています。



地域と共に第2の人生を自分らしく生きる集い、支え合い、学びの縁側 〈ふれあいオレンジカフェももやま 実行委員会〉

連絡先 ☎075-611-3168 ✉kazu_mizu117@nifty.com

地域住民が行政と連携して、高齢世代の自立生活、心理ケア、健康長寿を支援。①集いの場：お友達の輪を広げて笑い・会話・ゲームを楽しみ、生き甲斐の体験発表。②支え合いの場：デイサービスに馴染まない方、介護保険対象外の方に音楽療法・回想法・高齢者の医療講座、専門職の個別相談。③学びの場：介護予防・器具・施設利用・郷土史・自主防災・名曲名画鑑賞・高齢者向けIT。これらの参加型取組を行うことで、参加者が元気になり、生活改善にも有効だと実感しています。



毎月2回の定例会と特別イベント開催しています。どなたでも参加できます。



日野学区支え合いサロン おかげさま 〈日野学区婦人会〉

連絡先 ☎075-572-3157(加藤)

長寿化が進む日野学区において、日野小学校で高齢者に食事や学びの場を提供するサロンを開催しました。

サロンでは、手作りの食事やおしゃべりを楽しみながら、保健師による健康長寿に関する講演を行うなど、会食を通じて地域役員や参加者同士が交流しました。

この取組により、単身高齢者の閉じこもり予防や認知症の早期発見につなげ、地域で高齢者を支え合うまちづくりを目指しています。



サロンを通じて知り合った人たちが、日常生活でも顔を合わせたときに、声を掛け合える関係になり、地域の中で新たなつながりが生まれました。



「小栗栖宮山防災行動モデル」の策定 〈小栗栖宮山自主防災会〉

連絡先 ☎080-5346-4020(古田)

小栗栖宮山学区総合防災訓練(平成29年10月開催)において、災害時の避難所運営を疑似体験できる「避難所運営ゲームHUG」を学区全体で行うとともに、被災地等での復旧ボランティア経験を踏まえた「だいたい地域活動若者応援隊」による講義を実施することにより、災害発生時における命を守るための適切な初期行動への理解や、住民の共助による防災行動の重要性を周知し、学区全体の防災意識の向上を図ることができました。



防災活動を通じ、地域コミュニティの活性化を図ろうと、小栗栖宮山学区独自の防災マップを作成し、各世帯に配布する予定です。



マイ防災マップの作成及び全戸配布 〈羽束師地区自主防災会〉

連絡先 ✉kensaku.kojima@gmail.com(小嶋)

羽束師地区自主防災会では、平成28年度に住民が安全に避難できるように河川レンジャーと一緒に地域内を視察して回り、過去の水害発生場所や水害発生時に注意が必要な危険箇所の情報収集を行い、今回、これらの情報を元に地域の「マイ防災マップ」を作成し、各戸に配布した。

すべての住民が安全に避難所まで避難できるようにしていきたい。



今回、配布した「マイ防災マップ」を今後、各家庭や総合防災訓練などで活用していきたい。



我が家の避難計画 〈伏見区二ノ丸学区自主防災会〉

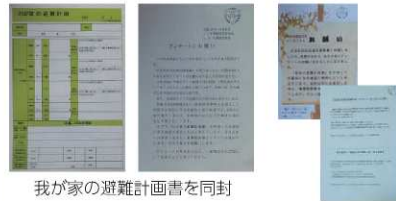
連絡先 ☎075-621-8517(増田)

向島ニュータウンは、入居開始から40年になります。一人暮らしの高齢者や障害者、中国帰国者が多く住まわれています。災害時に避難困難者も多くおられます。そこでいざという時に、迅速・安全に行動し無事を確認し、避難ができたらい、[我が家の避難計画書]と同時に台風・大雨、地震の行動マニュアルも作成し全戸配布しました。避難計画書には同居家族や緊急連絡先、かかりつけ医、お薬手帳、ペット等の情報を記入するものです。

作成後は、家庭で冷蔵庫に貼ったり、自主防災会に提出する等により、防災意識の向上や災害時の支援に役立てていきます。



我が家の避難計画書を全戸配布したところ、「個人情報ではないのか」「提出したら災害時助けに来てくれる」等の声がありました。どれだけの方が提出してくれるのか不安でしたが、666件回答がありました。
自治会の皆様、ご協力ありがとうございました。



我が家の避難計画書を同封

掲示板のポスター



高齢者が、他の高齢者、障害者、子どもに朗読、読み聞かせを提供する「つながりを広げる活動」〈お話の会 すずらん倶楽部〉

連絡先 ☎090-9888-2644(辰巳)

高齢者が、朗読や読み聞かせに関心を持ち、それを通して人と人との繋がりを楽しんでを広げることを目指しています。年間約90回、健康な方・リハビリ中の方・認知症の方・図書館の子ども達などを対象に各施設を毎月訪問しています。四季のイベントを織り交ぜて企画した「お話の会」の中で紙芝居や絵本の読み聞かせを行い、その基本知識や方法を伝えています。活気のある声が響く朗読・読み聞かせの体験を実施しています。



四季を通じて企画していくことで地域の方との交流の場にも繋がっています。スタッフの方々のご協力を得て、連携も深まり継続する大切さを実感しています。

久我の杜小学校区域及び神川中学校児童通学路交通安全対策及び車両に対する啓発活動 〈久我の杜交通安全推進委員会〉

連絡先 ☎075-922-2246(小幡) ✉run-hamtakaob@outlook.jp

平成28年度から地域の子どもの通学路の安全確保に取り組んでおり、鏡面反射板等を設置し、地域における交通安全意識の向上を図りました。



学校の校門及び周辺の出入り口に、お迎えの車も多く、帰宅途中の子どもたちが車の陰になり、危険を及ぼす事態にもなるため、注意喚起として周囲に「駐車ご遠慮ください」の掲示板を取り付けました。

地域の方々、学校から喜んでいただいています。



4 採択団体の取組紹介 ③小規模枠

認知症の人もそうでない人もみんなずっとこの地域で暮らして行ける 〈ちえのわ〉

連絡先 ☎070-5431-9498 ✉e-27sata@kfx.biglobe.ne.jp (佐田博子)

原則として毎月第3火曜日の午後に「ちえのわ」を開催しています。医師をはじめ様々な専門職の講座を通して、認知症が身近でない方にも正しい知識を持っていただきたい。それが、どなたにとっても暮らしやすい地域作りにつながるのでは、との思いで活動しています。座学だけではなく、口腔体操、脳トレなども適宜行っています。またカフェタイムを設けていて、時には季節のお菓子をみんなで作ったりしながら和やかに自由な時間を過ごしました。介護中の方にとっては経験交流や専門家への個別相談の場となっています。



行政(市、区)、他団体(社会福祉協議会、地域包括支援センター)との交流を通してネットワークの構築を図っています。参加者の中から、ご自身の地域で新たに「居場所」活動を始められた方々もおられます。今後は、健康に役立つ体操等にも取り組みたいと思っています。



活動の様子

きまぐれサロン「音楽療法と笑いヨガで心と体の健康づくり」〈きまぐれサロン〉

連絡先 ☎075-602-2074 (藤井美恵子) ✉masakazugodo1951@yahoo.co.jp (神門正和)

向島ニュータウンの分譲集合住宅集会所を活用して、高齢者が気軽に集え、「心と体の健康づくり」に役立つ取り組みとして、「きまぐれサロン」を平成29年3月から月1~2回開催しています。

1回あたりの開催時間は1時間半ほどで、「笑いヨガ」と「音楽療法と歌」「ティータイム」を組み合わせて行っています。適度の運動と歌声でリフレッシュできる機会として好評です。

7月には、「オルゴールコンサート&音楽療法で健康づくり」、8月には「みんなの認知症予防ゲームと認知症のおはなし」、9月には、「ロコモ予防と笑いヨガで健康づくり」を行いました。



「笑いヨガ」は、最初とまどう方もおられました。回を追うごとに楽しみにして来られる方が増えています。



第二回 淀夏祭り〈淀催事の会〉

連絡先 ☎075-632-5048 (栗野)

現在、淀地域においては地域住民の交流の場がないことが課題となっています。そこで地域住民を対象に夏祭りを開催することで地域住民の交流を深めたいと考えイベントを開催しました。

あいにく夏には開催することができず、3月の河津桜の開催時期に合わせて内容を変えて実施することができました。

今後もイベントを続け多くの方に参加していただき、淀の町の活性化に努めていきます。



今年は、開催場所の確保が困難であったため、時期を3月に変更し、イベントを実施しました。



写真は
昨年度の様子



みんなの居場所 しもづ ほっとサロン〈しもづ ほっとサロン友の会〉

連絡先 ☎075-631-9162 (伊藤)

淀下津町(440世帯)に住んでいる高齢者の「居場所」として、平成29年6月からスタートしました。毎月1回(第1日曜日)、午後2時から4時まで、下津町公会堂で実施しています。12月までに6回実施、延べ170余名が参加されました。

着席したままの体操、合唱、おしゃべり(お茶)タイム、手話を中心に、時には地元の病院の協力を得て、体脂肪測定による健康講座やクリスマスにはカラオケ大会も行いました。



参加者から、「このような場を作ってもらってうれしい」、「顔見知りが増えた」とのコメントがあり、少しは役立っているかなと感じています。



伏見のワラジ造りプロジェクト 〈御香宮武者組〉

連絡先 ☎090-3859-2229 (中山) ✉masa@nice-kyoto.homeip.net

ワラジは、旅行の無事を祈って神社に奉納される風習が残っているだけで、1950年代以降ほとんど作られなくなり、お祭りなど伏見の伝統的なイベント実施の際に、伝統的な履物であるワラジの確保がほとんど不可能になっています。私たちは、ワラジの制作体験会・試着会・展示会を開催し、多くの人々にワラジの良さを知ってもらおうとともに、御香宮神幸祭に使用するワラジを制作することになりました。

5月: 甲冑の虫干し、甲冑とワラジの試着体験会
7月: ワラジの制作会 (2回)



人形、ワラジ、団扇など伏見の伝統的な産物に関する製造技術の保存継承が危ぶまれています。一人でも多くの人に関心を持ってもらおうと頑張っています。



竹とんぼによる地域資源再生(活用)と多世代交流 〈深草竹コプターの会〉

連絡先 ☎090-3359-9800 ✉f.takecopter@gmail.com(三林)

平成28年11月23日に深草小学校で「竹とんぼを一齐に飛ばした世界記録」に挑戦、631人のギネス記録を樹立した後、「竹とんぼ」という昔遊びの道具を一つの切り口とし、地域活性化の一助となることを目的に、以下の事業を実施しました。

- ① 放置竹林の現状と活用・・・深草の竹林見学と竹とんぼ作り体験ツアー(11月)
- ② 竹を使った地域町おこし・・・深草100円商店街で竹ぼっくり作り(11月)
- ③ 多世代交流と青少年の健全な育成・・・竹とんぼDEキャンプ(9月)
- ④ NPO・地域団体との連携・・・ロケットストーブ(燃料は放置竹林の竹)を子ども食堂で活用しました。



地元にいながら深草の竹林には無関心でしたが、竹の良さを色々知ることができました。また参加してくれた子どもたちの笑顔が活動の力になりました(^^)ノ



地震に強い町づくり ～南海トラフ地震に備えて～ 〈川久保町自治会〉

連絡先 ☎075-643-6519 ✉kazeno.shu0604@docomo.ne.jp(木村)

「地震に強い町づくり」を地域に浸透させるべく、平成29年度より事務局を創設。川久保町だよりを通して、防災名簿の更新を依頼し、従前より充実した防災名簿をデータベースとして保存。また、災害発生時に町民が適切な避難行動がとれるように避難場所、避難経路をあらかじめ周知すべく川久保町独自のハザードマップを作成、全町民に配布しました。

防災・防火訓練は2回実施、講習会も開催。65歳以上の高齢者に安全カプセルを配布し、恒例の年末防災活動「夜回り」も実施しました。



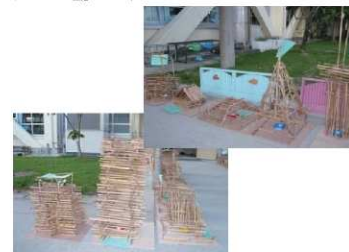
防災意識が町内に浸透し、防災ムード一色と声をかけられ、身の引き締まる思いです。



ヨシ灯り展 〈伏見楽舎(ふしみがくしゃ)〉

連絡先 ☎075-621-5689 (津田) ✉info@fushimigakusha.org

伏見向島の宇治川河川敷にあるヨシ原。以前はヨシズや御簾の材料として広く使われ、この地域の人々の生業に深く関わるものだった。かつては石田三成がこのヨシ原を管理し、軍資金にしていたとも言われている。現在でも西日本一のツバメのねぐらとなるなど、様々な野鳥が観察される自然の宝庫であると同時に、ここのヨシは茅葺屋根や三栖神社の炬火(たいまつ)祭の材料などに活用されている。しかし、それ以外は焼き尽くされているので、ヨシの活用としてヨシ灯り展のオブジェづくりに活用することを地域の子どもたちに勧める。



物づくりの機会が少なくなっている地域の子どもたちが、真剣にオブジェづくりに取り組み、個性を発揮し徐々に出来上がる喜びを体験し作品発表会では、父兄や地域の人たちに見てもらい楽しんでいた。



4 採択団体の取組紹介 ③小規模枠

久我食育推進事業〈久我土ん子クラブ〉

連絡先 ☎080-1420-3259(久道)

今なお多くの農地が残る「田園都市」久我地域の魅力を発信するため、また、「食」と「農」に対する理解を深めて食生活をより豊かなものにするため、久我市民農園において食育イベントを開催しました。市販のジュースの糖分を学び、採れたて野菜と果物でジュースを作る「採れたて野菜で健康ジュース」、食品添加物について考える「見直してみよう、食生活と食品添加物」など、様々なテーマに挑戦しています。



どのようなテーマを取り上げたら多くの人にお越しいただけるか、どうしたらより関心をお持ちいただけるか、試行錯誤が続いています。



認知症につよいまちづくりの輪〈ももネット〉

連絡先 ☎075-605-4707(中西) ✉momoyamahoukatsu@kenkouen.jp

病気や年齢に関係なく全世代が住みやすいまちを目指し、①認知症理解普及啓発②行方不明者捜索ネットワーク③居場所作りの3つの事業を、介護福祉医療の有識者及び地域住民有志と共に取り組んでいます。10月には桃山東文化ホールで、「ももネット秋祭り」を開催。あいにくの雨でしたが260名を超える方にご来場いただき、分野を超えて全世代の人がつながるといふ、ももネットの目指す活動が実現したイベントとなりました。また、11月には「伏見・お城まつり」にブースを出店し、400名を超える方が来られました。共に、ももネットの活動について広く周知を図ることが出来ました。



医師や薬剤師、セラピスト等、介護・福祉・医療全ての職種と繋がる事ができました。今後も、さらなる認知度を高め、地域の中で必要とされる団体を目指します。



町家 de “交龍”サロン〈特定非営利活動法人 深草・龍谷町家コミュニティ〉

連絡先 ☎075-644-7760(長谷川)

龍谷大学の深草町家キャンパスを会場として高齢者と学生が集い、語り合う場である「交流サロン」を年3回開催しました。サロンでは世代を超えた人々が語り合うことで、お互いが持っている考え、知恵、能力などを理解し合い、共有することで双方がより良い関係を築く事を目的としています。

10月のサロンでは高齢者と学生がホットケーキを調理し、食事をしながら深草地域に関する古い話を聞いたり、SNSなどの最近の情報通信事情について語り、また歌い、楽しく交流しました。



高齢の参加者からは普段、学生と話す機会がなかったが、若い人の考えや思いなども聞くことができ、楽しく時間を過ごせましたとの意見をいただきました。



大岩七瀬川サロン〈大岩七瀬川サロン実行委員会〉

連絡先 ✉wakamatsu@kyoto.zaq.ne.jp(若松)

JR奈良線の東部地域では高齢者福祉を目的に、藤紫会(鞍ヶ谷)、むつみ会(瓦町)、いちようの会(谷口町、東伊達町(新、北部、東部))、うずらシニア会(うずらヶ丘)の4サロンがそれぞれ活動を行っていますが、各サロン間の交流はありませんでした。

同じ地域に住む高齢者・住民同士がつながり、この地域でいつまでも安心して住み続けられるにはどうしたらよいかを皆で考え、実行していくことを目的に、今回初めて合同交流会「大岩七瀬川サロン」を実施しました。



参加者が、ほとんど地域の住人で、知らない同士でもリラックスした元気の会になりました。また4つのサロンの開催者が協力して合同交流会を実施したので、開催者同士の緊密な関係が構築できました。



地域のつながりを作るみんなの菜園整備プロジェクト (Green Island 向島)

連絡先 ☎075-603-3345 (健幸プラス内 大濱)

GreenIsland向島では、コミュニティガーデンをイメージした菜園活動を行っています。緑にふれる活動を共に行うことで、住民自らが協力し合っ暮らすことができる地域を育むことを目指しています。

「みんなの菜園活動」は毎週水曜日10時～12時に開催。参加者の皆さんと一緒に野菜やハーブの栽培、花壇の整備などを行いました。また、収穫した野菜を食べながら将来の地域コミュニティを語り合う「菜園ランチミーティング」を季節ごとに開催しました。



「植物とも人も、虫とも触れ合える貴重な場所」との感想を頂いています。菜園の可能性の広さ・深さをしみじみと感じています。



留学生がつなく、地域と異文化理解プロジェクト (京都文教大学 多文化交流プロジェクト)

連絡先 ☎0774-25-2630 ✉fro@po.kbu.ac.jp

向島ニュータウンとその周辺地域には在日外国人や中国帰国者、京都の大学で学ぶ留学生が多く居住されています。しかし、私達学生や地域住民との交流はまだ少ない状況です。その理由のひとつに、「日本語が話せない」ことが、コミュニケーションの不足を招いていると考えました。このプロジェクトでは「留学生がつなく」をテーマに、学生連による留学生向けの日本語教室を中心に、交流会などの実施を通じて、相互理解を深めることを目指しています。



私達が日本語を一方向的に教えるだけではなく、英語、中国語、ドイツ語など受講生の母語を教えてもらっています。相互に学び合えるよう楽しい授業を目指しています。



留学生と一緒に田んぼで遊ぼう!子ども稲作体験プロジェクト (FUSHIMI留学生サポートクラブ)

連絡先 ☎075-777-7713 (藤崎) ✉frsc@kyotofushimi.com

向島地域の児童や大学生、留学生、地域の農家さんと住民の方々とともに、向島の田んぼにて田植えやお餅つきを行いました。またソノモン諸島から帰国した青年海外協力隊員による青少年向けの報告会も行いました。

子どもたちに農業体験、留学生との交流、新しい知見、地域の大人たちとの交流の機会を提供しました。



今年は稲刈りイベントが台風で中止になってしまったのが残念でした。



向島駅前の環境整備と活性化 (NPO法人向島駅前まちづくり協議会)

連絡先 ☎080-5326-4841 (NPO法人向島駅前まちづくり協議会会長 福井)

向島ニュータウンは、入居開始から40年を経て、団地内の公園の木々は大きく成長し、住環境は整ったように見えますが、一方で、住民の高齢化は急速に進み、地域は以前の元気を失いつつあります。

当協議会は、向島ニュータウンの玄関である「近鉄向島駅前の環境整備と活性化」をめざした取組を行っています。これは、当協議会がかねてからめざしてきた「地域のまちづくり」活動の一環でもあります。

向島駅前の「定期清掃と花の植栽(11月はパンジーとピオラ)」による美化活動は環境整備にとどまらず、地域老人会の支援も受け、高齢者の社会参加・社会貢献の場ともなっています。毎月第3日曜日午前10時からローソン近鉄向島駅前店の駐車場で開催する「向島駅前朝市」は、とれたての地産野菜、天然酵母のパン、京都府立すばる高等学校の生徒が企画した加工食品等を販売しており、身近に購入できる朝市として、住民から大変好評を得ています。



駅前朝市の様子

近鉄「向島駅」は向島ニュータウンの玄関です。この駅の美化と活性化を進めます。皆様のご協力・ご支援をお願いします。



久我やすらぎルーム 〈久我自治連合会〉

連絡先 ☎075-921-3278 ✉shirou.k@kyoto.email.ne.jp (河村)

高齢者の「居場所づくり」、「絆づくり」を目的に、「うたごえルーム」、「カラオケルーム」、「健康体操教室」をそれぞれ月1回、「キーボード教室」を月2回開いています。他地域からの参加者も多く、「うたごえルーム」と「健康体操教室」は毎回50人を超え、年間では延べ約3千人を超える盛況です。腕のたるみをなくそうと、タオルを使った体操も採り入れ好評です。久我自治連合会館の会場まで遠くても歩いて参加される高齢者が増えてきました。



タオルを使って「健康体操」1.2.3....



夏場には、午前6時半からの会館の周りの草引きにも参加してもらっています。ラジオ体操をして取り組むと30分余りできれいになります。

藤森神社ラジオ体操の会 〈藤森神社ラジオ体操の会〉

連絡先 ☎090-6910-3132 (徳永)

「健康は何よりの幸せ」のスローガンのもと、6月に龍谷大学深草キャンパスで「ラジオ体操第3」を復刻された安西・井上両教授を迎え講演と実技指導を、さらに10月に深草支所でヘルスピア21の松森運動指導士を迎え「いきいき筋トレとロコモ予防」の実技指導を受け、どちらも50名の定員をオーバーする参加がありました。

NHK京都のニュースでも放映され、新しい参加者も増えてきています。また、ラジオ体操第3もだんだん習熟してきて、参加者は幸せを感じています。



毎日同じラジオ体操が続いている活動ですが、マンネリにならないよう、新鮮味のある取組になるよう工夫をしました。

伏見～るかるた小冊子製作 〈伏見～るかるた小冊子作成実行委員会〉

連絡先 ☎075-525-9500 (中村)

今年10周年となる「伏見～るかるた大会」に使用されている「かるた」に、描かれている45か所の名所・旧跡や自然風景をページ毎に読み札にふさわしい季節の写真を撮影し、解説コメントを記載して編集し、A5版カラーで、(あ～わまで45ページ)の冊子を製作しました。

平成30年2月開催の「第10回伏見～るかるた大会」の記念イベントとして大会参加者全員に無料で提供しました。さらに伏見区の各小学校並びに区役所・支所、図書館で配架しました。

今住んでいる地元伏見の子どもたちや親子がこの冊子をガイドブックにしてその地域を訪ねて、さらなる伏見への愛着・連帯を深めてくれる事を願っています。



読み札や絵札にふさわしい情景の写真を撮るには、季節や時間帯の設定が大切であることが勉強になりました。



鴨川運河 ～健康長寿・発信&発信～ 〈鴨川運河会議〉

連絡先 ☎080-5438-3806 ✉kamoun.ukai@gmail.com (鶴飼)

地域住民の高齢化が進み、核家族化と共に世代間の交流は薄れつつあり、地域の記憶の継承や価値の共有が難しくなっています。鴨川運河会議はウォーキング、音楽・カフェ、清掃などの屋外活動や、シンポジウム、交流会などの屋内活動・イベントを通して、鴨川運河を取り巻く地域の魅力を伝え、理解と関心を高めることで、高齢者の外出機会を増進するとともに、鴨川運河という共通の話題をもつことで世代間の交流を図り、市民の健康長寿を推進しようと、活動を行っています。



秋に予定していたイベントのほとんどが雨天のために中止となりました。一方、高松橋などでは新たな発見がありました。地域産業の変遷がわかる興味深い内容です。



4 採択団体の取組紹介 ③小規模枠

区民が主役のまちづくり

大岩街道周辺地域の環境保全活動およびコミュニティ再生 〈龍谷大学政策学部井上ゼミ〉

連絡先 ☎075-645-8412(井上)

大岩街道周辺地域では、不法投棄による自然喪失や、町内会が無いことによる地域コミュニティの希薄化が課題となっています。そこで、地域住民や事業者を対象としたイベントや清掃活動等の環境保全活動をこれまでに計7回開催しました。地域資源を活かした季節に応じたイベントでは、住民と行政・住民同士のつながりをつくるとともに、清掃活動によって30リットル入りゴミ袋延べ約150袋、4トントラック2台分のゴミ等を撤去し、コミュニティの再生、地域の環境保全、整備活動に取り組んでいます。



より多くの方にイベントの周知を行い、今まで交流の無かった住民の方々にもイベントの一部を手伝ったり、参加していただき、少しずつですが地域住民の交流の輪を広げることができました。



今年度新たにレコード鑑賞会をしました。(写真) 男性の参加も少しずつですが増えて、様々な年代、男女問わず参加しやすい居場所になってきました。



とことんあそぼう!しぜんとあそぼう! ドキドキ、ワクワク、 ハテナがいっぱい!「森のようちえん」〈うずらの里の森のようちえん わっか〉

連絡先 ☎075-642-9483 ✉moriyou.wa@gmail.com(刈谷)

園舎を持たず深草周辺の地域資源を利用する地域に開かれた3~5歳の混合保育です。子どもの自主的な遊びの見守りを基本とし、直接的・具体的な、自然体験、社会体験をします。自ら行動し、考えることを目指して、自然の中での遊びを大切にします。その中で子どもは、人も自然の一部であると感じることができ、強い体と、人生の基礎となる独立心、我慢する心、人とうまくやっていく心を身に付けます。



深草100円商店街に「子ども商店」を開店。お散歩道にある畑のおばさんに畑仕事を教わったり、他団体のジャガイモ掘りに誘ってもらったりと交流が広がっています。



醍醐古写真集 〈醍醐の歴史と暮らしを学ぶ〉

連絡先 ☎080-3032-0933(徳光) ✉tokupon@aol.com

平成28年度の区民活動支援事業において、パセオ・ダイゴロー西館、醍醐小学校、醍醐支所などで、古写真展を開催いたしました。これを後世にも遺せる形にしたいと思い、写真集の発行を平成29年度の事業とさせていただきます。誰にでも見てわかる郷土の歴史書の1つとなればと思い取り組んでおります。



写真を集めてレイアウトし始めると、改めて醍醐の歴史を確認したり、作業そのものが「学び」であり、この経験を仲間や皆様と分かち合いたい気持ちが増します。



MEMO

Horizontal dashed lines for writing.

MEMO

Horizontal dashed lines for writing.

【本事例集に関する問合せ先】

伏見区役所地域力推進室企画担当 (電話611-1295)

【伏見区区民活動支援事業に関する問合せ先】

伏見区役所地域力推進室まちづくり推進担当 (電話611-1144)

深草支所地域力推進室まちづくり推進担当 (電話642-3203)

醍醐支所地域力推進室まちづくり推進担当 (電話571-6135)

この印刷物が不要になれば
「**雑がみ**」として古紙回収等へ！

